

基調講演「農村文明を考えるー梅棹文明学の視点から」 分科会①も担当

中嶋聞多 (64)



東京慈恵会医科大学、文教大学、法政大学大学院教授、事業構想大学院大学教授、慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科特別招聘教授などを経て、信州大学キャリア教育サポートセンター特任教授（現職）。専門は知識経営論。その応用領域は、ビジネスから地域活性まで幅広い。現在、地域活性学会長も務める。

分科会②「農山村文明の岐路ー発展とアーカイブー」

林靖人 (40)



1978 年生まれ、愛知県出身。信州大学大学院総合工学系研究科修了（博士：学術）。専門は認知心理学、感性情報学。修士課程在学中から大学発ベンチャーの立ち上げに参画し、社会調査や行政計画等の策定に従事。現在、信州大学産学官連携・地域総合戦略推進本部長、キャリア教育・サポートセンター副センター長として研究・教育に関わりながら、地域貢献活動として地域の地方創生総合戦略等の策定や地域活性化活動に多数関わる。

分科会③ 『これからの農村のインフラを考えるー建築とエネルギーから』

勝亦達夫 (37)



昭和 55 年生まれ。東京理科大学理工学部建築学科卒。平成 17 年より小布施町と東京理科大学が共同で設立したまちづくり研究所の所員として活動。平成 23 年に博士号（工学）を取得。同年より小布施町役場勤務し、景観・まちづくりなどを担当。平成 28 年度日本建築学会賞・教育賞を受賞。平成 28 年から信州大学キャリア教育・サポートセンター助教（現職）。教育と地域づくりの実践を継続しながら、地域課題を産官学の協働で解決するため活動している。専攻は建築歴史・意匠、まちづくり。

分科会④ 「ミレニアル世代が考える、プロトタイプシティとしての地方自治体の可能性」

正能 茉優 (26)



（株）ハピキラ FACTORY 代表取締役／ソニー（株）新商品企画担当
慶應義塾大学大学院 特任助教

1991 年東京生まれ。慶應義塾大学在学中の 2012 年、地方の商材をかわいくプロデュースし発信する（株）ハピキラ FACTORY を創業。大学卒業後は広告代理店に就職。現在は、ソニーで新規事業・新商品を開発しながら、自社の経営も行う「パラレルキャリア女子」。その「副業」という働き方の経験を活かし、経済産業省「兼業・副業を通じた創業・新事業創出に関する研究会」の委員も務める。自社の活動としては、2017 年 3 月より、日本郵便とコラボした商品群が全国 24,000 局の郵便局で発売。